

擁壁のある敷地をお持ちの皆様へ

敷地の安全を確認し、崖崩れを防ぎましょう

ここ数年の大雨では、古くなった擁壁（特に石積み）が壊れることによる崖崩れが多発しています。石積みの中には、一見大丈夫そうに見えても、劣化の進行や排水機能の低下に加えて、ひずみが蓄積して壊れる寸前のものもあります。

ご自宅等の擁壁や敷地を見回り、排水処理や擁壁補修をして災害を未然に防ぎましょう。

また、「空き家等の除却により更地になった敷地」や「古い擁壁をそのままにして家だけを新築した場合」でも、大雨等の影響による崖崩れが発生しています。

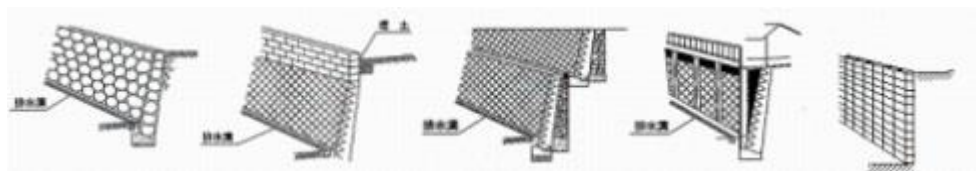
空き家等の除却や家を新築する時に、敷地に不安定な擁壁や古い擁壁などがある場合は、設計する建築士や工事を行う会社等に、必ず擁壁が安全かを確認しましょう。

まず、ご自身で次のことを確認しましょう。

いずれか1つでも当てはまれば、崖崩れのおそれがあります。

① 擁壁は不安定な構造形式か？

例：空積み 増し積み 二段擁壁 張出床板付き 空洞ブロック



② 擁壁に変状が生じているか？

例：ひび割れ、ふくらみ、石の抜け落ち

③ 擁壁の排水機能が低下しているか？

例：水抜きパイプ（穴）がない、水抜きパイプ（穴）が詰まっている

④ 擁壁周辺の地盤に変状が生じているか？

例：背面地盤のひび割れ、陥没、沈下

⑤ 敷地に降った雨水が擁壁側に流れ地盤にしみ込んでいるか？

例：溝などの排水施設がなく、水が擁壁側に垂れ流し

なお、擁壁が古い場合（造ってから50年以上）も安全性に問題があることが多いので、建築士等に相談しましょう。

お問合せ先

北九州市建築都市局 建築指導課 電話 093-582-2531

開発指導課 電話 093-582-2644

敷地の擁壁は安全ですか？

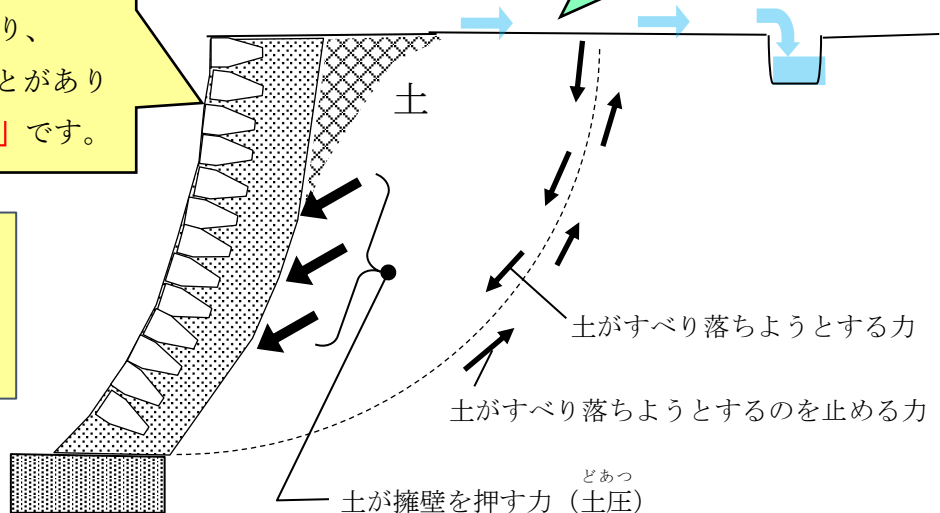
住宅の敷地を支(ささ)える石積(擁壁)が古くなると、劣化(れっか)により石と石を結び着ける力が弱くなります。

また、擁壁は、絶えず、うしろの土が押す力を受けるので、「ひずみ」が溜まり、「ひび割れ」や「変形」が生じることがあります。これらの変状は「壊れる前兆」です。

※側溝や水抜きパイプが壊れたり、詰まったりして、水が流れなくなると崖崩れが起きやすくなります。



崖崩れの防止には、排水をしっかり行い、水が地面にしみ込むのを少なくすることが大切です。



擁壁の崩壊

擁壁のひび割れや変形が進み、土の押す力に抵抗できなくなると、崖崩れが起きます。

土地所有者の責任

崖崩れ等発生しないように安全な状態に維持管理する責任があります。

◎自宅の擁壁が壊れると、周囲に多大な迷惑がかかってしまうことがあります。

自宅だけでなく、隣接家屋への被害が発生すれば、被害者も避難。また、家も含めた被害者への補償。お互いに精神的な負担が発生。

◎復旧工事が多額になり、工事ができないこともあります。

数百万円から1千万円を超える工事費用が必要。最終的に資金がなく工事ができないことも…

～あなたの宅地の石積みの状態をチェックしてみましょう。～

インターネットを利用できる方は、北九州市のホームページから「宅地防災のポイント」で検索してみてください。まず、あなたの宅地の擁壁が危険な擁壁の形式かどうか確認してください。次に、擁壁チェックシートで石積みの状態を確認してください。

インターネットを利用できない方は、各区役所又は出張所等にチェックシートを備えていますので、ご利用ください。